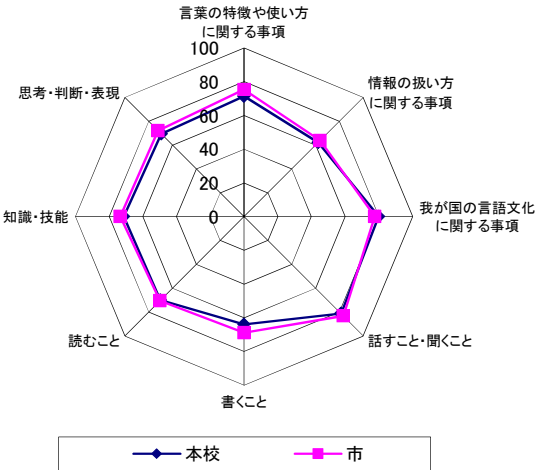


宇都宮市立田原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.5	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	62.3	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	79.9	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	81.4	83.2	81.6
	書くこと	63.9	68.9	58.6
	読むこと	70.1	70.5	65.7
観点別	知識・技能	71.3	73.4	66.2
	思考・判断・表現	69.5	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

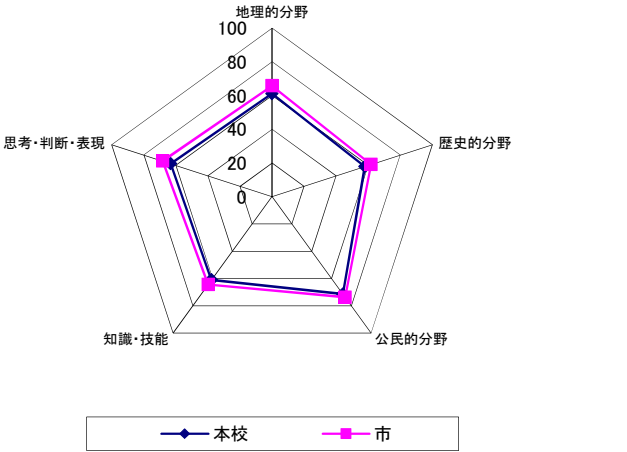
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みでは、3問のうち1問で市の平均正答率を7ポイント上回った。また、用言(形容詞)の活用形を見分ける問題では、約65パーセントの生徒が正解し、市のそれを13.6ポイント上回った。 ●漢字の読み「催し物」(中学1年の学習漢字)の正答率が27.9パーセントにとどまった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正しく読んだり書いたりするために必要な①漢字の成り立ち・②音読みと訓読み・③部首の知識の3点を身に付け、それを漢字の学習に生かせるようにする。 ・家庭での学習時間を充実させ、授業で学習した内容の定着が図られるよう、「家庭での学習の進め方」や「時間の使い方」などの指導を継続していく。
情報の扱い方に関する事項	○説明的文章の読解の問題では、情報と情報の関係を理解し、論理の展開を捉える問題で、8割以上の生徒が正解し、市の平均正答率を上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、文章全体を整えて書く問題では、正答率が約37パーセントにとどまった。	・記述式の問題では、触れなければならない要素が多くなると解答率自体が下がる傾向が見られる。問題に示されている解答の条件を整理し、問題に正確に解答する力を養っていく。 ・作文などの演習を通して、問題を正確に理解し、条件に合わせて文章を書く力を伸ばしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○行書の特徴を捉える問題では75%の生徒が、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題では80%以上の生徒が、正解し、また、それぞれ市の正答率を上回った。 ●課題の見られた、現代語訳を手掛かりに古文を読解する問いについては、8割以上の生徒が正解し、改善が見られた。しかし、市の平均正答率を5.3ポイント下回った。	・古文の読解の問題では、読解の流れを整理し、「どんなことに注意しながら読み取りを進めていくか」が明確になるようにしていく。また、この指導と合わせて、読解に必要な知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する記述式の問題では、約8割の生徒が正解し、市の正答率を6.6ポイント上回った。 ●発表の内容を聞き取る問題のうち1問の正答率が、約7割で、市の正答率を9.5ポイント下回った。	・問題文から、文章の条件を正しく読み取る力を伸ばしたり、「書くこと」に対する抵抗感を軽減したりする指導を継続していく。 ・要点を捉えながら話を聴く姿勢の醸成。
書くこと	160字以上200字以内の文章を書く問題では、次のような状況が見られた。 ○8割以上の生徒が「2段落構成」の意味を理解して解答していた。 ●「読み取った内容を明確にして書く」という点に課題が見られた。	・200字程度の課題作文では、演習を通して、①原稿用紙の使い方、②問題文に示された条件を正確に読み取り、構成や内容に反映させることなどへの理解が深まり、しっかりと取り組めるようになってきた。演習やその添削などの学習活動を継続していく。
読むこと	○説明的文章の「論理の展開を捉える問題」では7割の生徒が、文学的文章の「物語の展開の仕方を捉える問題」では8割以上の生徒が、正解した。また、その正答率は市の平均を上回った。	・説明的文章については、段落ごとに読むようにし、接続語や指示語、文末表現などに留意し、筆者の主張やそれを支える具体例を捉えられるようにしていく。 ・文学的文章については、「誰の言動か」を丁寧にたどり、登場人物の言動を根拠に、その気持ちや行動の理由などを整理できる力を伸ばしていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.1	65.7	56.7
	歴史的分野	57.9	61.7	54.8
	公民的分野	71.4	73.8	73.3
観点別	知識・技能	61.0	64.5	59.5
	思考・判断・表現	63.2	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

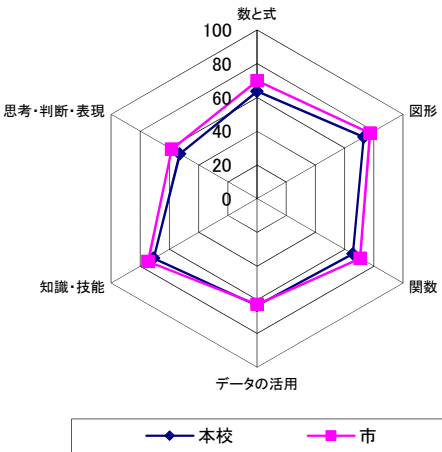
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○日本の地域的特色では、市の平均を上回った。 ●ほとんどの問題で、市の平均を下回っている。特に、中国・四国地方の気候に関する問題では市の平均を21%も下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・複数の主題図やグラフ、統計資料などを活用して位置や分布、推移などの情報を読み取り、その結果をまとめる学習活動を授業で重点的に取り入れる。 ・多様な意見を尊重し、多面的・多角的な視点から社会的事象に気づかせるように、グループ活動や話し合い活動を積極的に導入する。その際、一人一台端末を積極的に利用する。
歴史的分野	○江戸時代の幕藩体制や大名の統制に関する問題では市の平均を大きく上回った。 ●近世・近代の歴史についての複数の資料を読み取る問題では、市の平均を大きく下回った。似たような資料が多いため、資料を比較し考える問題に課題が見られる。	・各時代の特徴を理解し、時代ごとの共通点や相違点について比較・検討ができるように、単元や分野全体を見通した学習指導を実施する。 ・多様な資料をもとに当時の社会における人々の生活の様子や歴史的事象の因果関係を読み取ることができるよう、資料を取り扱う授業を積極的に取り入れる。 ・古代や中世、近世の政治の特色を比較・検討し、類似点や相違点に気付かせるような学習課題を設定した授業を実施する。
公民的分野	○人間の尊重と日本国憲法について、特にフランス人権宣言や憲法改正の手続きに関する問題では、市の平均を大きく上回った。 ●私たちの生活と現代社会に関する問題では、物事の採決の仕方・日本の高齢社会についての資料の読み取りが市の平均を大きく下回った。	・対立と合意、効率と公正などの判断基準を考察するために生徒の身近にある現代社会の事例を題材に取り上げる学習活動を積極的に導入する。その際、グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、思考の深まりを促すような授業を展開する。 ・時事問題を多く取り上げるなど、政治の仕組みや日本国憲法の特色について理解が深められるような学習活動を工夫する。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	63.7	69.9	66.4
	図形	73.1	77.4	68.1
	関数	65.7	70.6	60.8
	データの活用	63.4	62.7	54.2
観点別	知識・技能	70.8	74.6	70.3
	思考・判断・表現	52.9	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

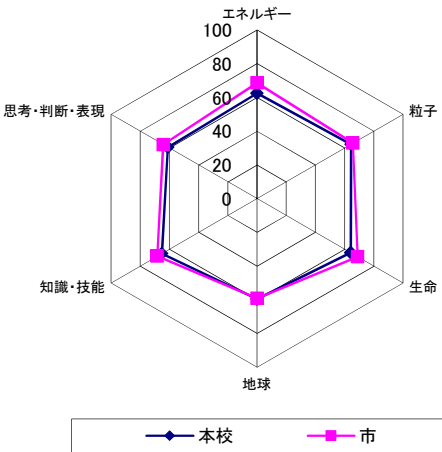
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○連立方程式の立式においては、市の平均を上回った。 ●ほとんどの問題において、市の平均を下回っている。特に、正負の数の計算や1次式の計算など1年生の内容に市の平均との差がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業での問題演習、家庭学習が足りていない。また、授業中に公式をただ暗記させるのではなく、「なぜそうなるのか」を説明しあったり、発見して自分たちの言葉で公式を作らせたりすることが重要である。 ・今年度数学ドリルを活用して毎時間5分程度計算演習をさせていたが、手が止まってしまう生徒が多かった。授業の進行状況も考えながら、ドリルを解説・復習する時間も取っていく。
図形	●すべての問題において、市の平均を下回った。特に作図や直線の位置関係など1年生の内容で市の平均を5ポイント程度下回っている。	・3種類学習する作図に関しては、何度も書かせて覚えさせていく。 ・直線の位置関係などの空間図形については、具体物を提示しながら指導していく。そうすることで直線は限りなくまっすぐ続いているという認識を持たせたい。
関数	●すべての問題において、市の平均を下回った。特にグラフの読み取りかたを説明する問題では、市の平均を10ポイント以上下回った。	・関数とは何か、比例とは何か言葉で確認していく必要がある。また、表や式、グラフがどのようなところで関連しているのかを時間をかけて丁寧に確認していく。 ・授業中の活動では、グラフからどうしてしてその判断ができるのかについて話し合い活動を積極的に取り入れていく。
データの活用	○箱ひげ図に関する問題は、市の平均を大きく上回った。 ●度数分布表や度数折れ線など1年生の単元が市の平均を下回った。	・箱ひげ図の問題は、学習指導要領改訂に伴って高校の学習内容から、中学校の内容に下りてきた単元である。それゆえにここ数年は数学の県立入試に採用されているため過去問などをよく解いている3学年の平均が高いのではないかと推測する。 ・度数分布表に関しては勉強が足りていない。代表値などと合わせて授業中に確認させていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.5	68.7	63.6
	粒子	64.4	65.7	64.2
	生命	64.2	68.9	64.4
	地球	59.6	59.2	54.3
観点別	知識・技能	65.2	68.4	64.4
	思考・判断・表現	61.0	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

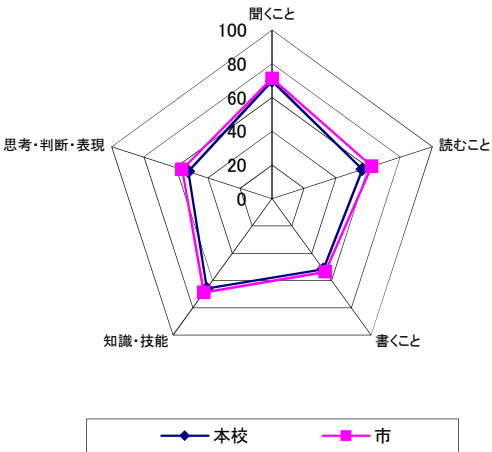
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は市平均よりも6.2ポイント、全国の平均より1.1ポイント下回っている。 ○物体の運動について問う問題については、市・全国の平均正答率を上回っている。 ●電流がつくる磁界を問う問題に関して、市・全国ともに平均正答率を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な内容は理解できているが、実験結果から計算したり、値の変化に対する結果を推測したりする問いに対して正答率がやや低くなっている。今まで以上に目的を明確にして実験を行い、結果から考察を行う思考の時間を確保し、物体の運動の様子、性質の理解を深めさせていく。
粒子	平均正答率は市の平均より1.3ポイント下回ったが、全国平均よりは0.2ポイント上回った。 ○水の電気分解、水溶液の性質を問う問題については、市の平均正答率を上回っている。 ●物質の状態変化を問う問題については市・全国の平均を下回っている。	・実験を行った物質についての理解はできているが、実験を行わない物質についての理解が足りていない。実験を行うと同時に、実験を行わないその他の物質についての考察をする思考の時間を確保し、理解を深めさせていく。
生命	平均正答率は市の平均より4.7ポイント、全国の平均より0.2ポイント下回っている。 ○動物のからだのつくりとはたらきに関する問題では正答率が市・全国の平均を上回っている。 ●生物の成長とふえ方に関する問題では、正答率が市・全国の平均を下回っている。	・植物の分類に関する問題ではよく理解できているが、遺伝の規則性については理解の不足がみられるので、よりわかりやすい資料を提示し、筋道立てて考えさせるように時間を確保する。実験を行えない単元では、有効に資料を提示し、用語を覚えるだけでなく、他のつくりとのつながりや関連を意識させて、理解を深めさせていく。
地球	平均正答率は市の平均より0.4ポイント、全国の平均より5.3ポイント上回っている。 ○火山に関する問題は市・全国の平均正答率を上回っている。 ●前線の通過と天気の変化に関する問題もよくできているが、天気図から観測地点を予測する問題が市の平均を下回っている。	・全体的に火山、気象に関する問題はよく理解できている。今後も、教科書の資料だけでなく、地域教材も活用しながら、自然現象を身近に感じさせながら指導し、理解を深めさせていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.9	71.2	65.4
	読むこと	56.4	62.1	56.9
	書くこと	51.8	53.8	42.5
観点別	知識・技能	65.8	68.8	64.7
	思考・判断・表現	52.2	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	市の平均に近い。 ○市の平均を上回っている問題も多い。特に内容に合う絵を選ぶ問題はすべて市の平均を上回っており、そのうちの1つは正答率が100%であった。 ●対話文の応答であったり、概要を捉えたりしなければならないものは正答率が下がる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・目的・状況・場面を設定し、その都度どのような応答が適切であるかを考えさせたり、またリスニングの練習をする際には、問題文をよく読ませ、推測しながらリスニングをしたりできるように指導していく。
読むこと	市の平均は大幅に下回っている。 ○直近に習った文法や文構造は理解している生徒が多く、市の平均と大きく変わらない。 ●過去に習ってきた文法や文構造を忘れてしまっているのか定着していない生徒が多く、正答率も下がる。	・基礎・基本の定着を図るために、文構造を理解するための音読を繰り返し行う。また英文を読むために必要な語彙力強化として、新出語句の小テストをしたり、帯学習で様々な単語や既習文法に触れる機会を増やすような活動を取り入れたりして指導していく。
書くこと	市の平均に近く、あきらめずに文を書こうという意欲が見られる。 ○正しい文に並べ替える問題では5ポイントも市を上回っているものもある。 ●ほとんどが市の平均を下回っている。対話の流れに沿って相手に伝わるように文を書くことは厳しい結果となった。	・基礎・基本の定着を図るために、文構造を理解するための音読を繰り返し行ったり、新出文法の定着のためにドリル的に書く練習をしたりする。その中から、既習文法を用いて自分の考えや気持ちを書くことができるよう指導していく。

宇都宮市立田原中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するため、わかる授業の展開を中心とした学習指導の工夫・改善	・基礎基本を確実に習得させるために、ねらいの共有と書いたり伝え合ったりするなど言語による振り返りを行い、その時間に学ぶべきことがわかったかどうかを確認させる。 ・タブレットの有効的な活用 ・家庭学習の習慣化に向け、毎日家庭学習ノートの提出	・「学校の授業がどの程度わかりますか」の質問への肯定割合は、市の割合と比べると下回る。平日、休日の学習時間を問う質問から、学習時間が全体的に短い。目安とする学習時間、学習方法や家庭学習について、継続して具体的に指導していく必要がある。 ・パソコンを使用しての学習を問う質問への肯定割合は市よりも高く、有効活用ができています。
主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・授業の中で周囲と意見を出し合い、考えを深められるような時間を取るようになっている。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」への肯定割合は、市より1、3年生は上回っている。「自分の考えを、根拠を上げながら話すことができる」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」への肯定割合は、どの学年も市より下回っていることから、比較的意欲をもって話し合いに参加はできているが、理由も含めてしっかり考えさせる時間を確保し再構築させていく必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・授業の中でねらいを生徒と共有すること、振り返りを書いたり伝えあったりして次につながるような振り返りをさせることを継続していく。
- ・基本的な学習方法や計画的に学習することの大切さ、家庭学習の方法について、1年生のうちから示して学力の向上を図っていく。
- ・話し合いをさせる際には、根拠を基に話せるよう、また話し合い後にさらに自分の考えを広げられるよう指導していく。